

歌誌 黄雞「夏号」再投稿歌

(新仮名) (\*..写真短歌)

山形短歌会 黒沼 貞志

歌題 アンソロジー

壁いちめん覆い尽くせり春の薔薇主の想いを語り咲きおり (\* )

昼深き手入れの庭に夏匂ひ手掛けし主の思い漂う (\* )

昼下がり夢路に届く郭公の鳴き声幽か小暑のうたた寝

散歩道出会いし父娘の朝練の励む姿に朝日射しをり

歳かさね暑さ身にしむ梅雨盛り髪すく妻にカット勧めん

山麓のコスモス畑に踏み入りて遊ぶ夫婦にたそがれは来ぬ (\* )

ゴミを出し戻りの路の足先に伸びたる影は秋へのきざはし

「おはよう」と吐く息白き隊列の子らに重なる我が学童期

夕立の校門前に車列なす下校の光景様変わりけり

薄ら日はこの地と等しく微笑むかかの地はいまだ除染に喘ぐ

夏ちかし山並み白雲菜の畑薫風の中墓並びをり (\* )

秋浅き日の斑つらなる山の路踏む松落葉足に優しき

黄昏れる岸辺の雪にかまくらの灯影連なりミニ天の川

ほろ苦き期待をこめて札狙う中学最後のかるた大会

アンソロジー我が歩み記す一冊の無事の入稿誰に伝へむ